

日本ロッシーニ協会 定期演奏会 2011

メルカダンテ & パチーニ再発見 (ロッシーニの協力者と後継者)

— 知られざるイタリア・オペラ 1820~26年、1831年 —

2011年10月9日[日]
14時開演 (13時30分開場)



メルカダンテ
Saverio Mercurandante
(1795-1870)



ロッシーニ
Gioachino Rossini
(1792-1868)



パチーニ
Giovanni Pacini
(1796-1867)

東京オペラシティ
リサイタルホール

全席自由 ¥4,000
学生 ¥3,000

解説 水谷彰良



天羽明恵
ソプラノ



阪口直子
コントラルト



小山陽二郎
テノール



須藤慎吾
バリトン



金井紀子
ピアノ



山口佳子
ソプラノ/メゾソ

演奏曲目: 以下のオペラよりアリア、二重唱、アンサンブルほか

パチーニ (Giovanni Pacini)
歌劇《バグダットの女奴隷》(1820年ナポリ、サン・カロ劇場初演)
"La schiava di Bagdad" (1820, Teatro San Carlo, Napoli)

ロッシーニ (Gioachino Rossini)
歌劇《マオメット2世》(1820年ナポリ、サン・カロ劇場初演)
"Maometto secondo" (1820, Teatro San Carlo, Napoli)

メルカダンテ (Saverio Mercurandante)
歌劇《エリーザとクラウディオ》(1821年ミラノ、スカラ座初演)
"Elsa e Claudio" (1821, Teatro alla Scala, Milano)

歌劇《アンドロニコ》(1821年ヴェネツィア、フェニーチェ劇場初演)
"Andronico" (1821, Teatro La Fenice, Venezia)

歌劇《ニトクラ》(1821年トリノ、レージョ劇場初演)
"Nittora" (1821, Teatro Regio, Torino)

歌劇《スペイン女王カテリーア》(1826年ヴェネツィア、フェニーチェ劇場初演)
"Caterina, regina di Spagna" (1826, Teatro La Fenice, Venezia)

歌劇《ザイラ》(1827年ナポリ、サン・カロ劇場初演)
"Zaira" (1827, Teatro San Carlo, Napoli)

主催 ● 日本ロッシーニ協会 後援 ● イタリア文化会館
マネージメント ● ミリオンコンサート協会 03-3501-5638

チケット取り扱い ● CNプレイガイド 0570-08-0990 / 東京オペラシティチケットセンター 03-5353-0999 / 東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

日本ロッシーニ協会
Societa Rossiniana Giapponese

日本ロッシーニ協会は、ロッシーニを愛する音楽愛好家、評論家、声楽家、演奏家、オペラ愛好家によって1995年に設立された研究協力団体です。
(役員会長: フジノコトコ(会長)、木谷京典(事務局長)、金子紀子(代表理事)、芝原洋子(代表理事)、金子紀子(代表理事))発行: 協会誌「ミラノ」
し、ロッシーニに関心のある方々には大歓迎です。入会費請求書は事務局まで。 Tel: 03-3721-2064 / Fax: 03-3722-0426 会費

メルカダンテ & パチーニ再発見

オペラ作曲家ロッシーニのイタリアでの活動は、1823年にヴェネツィアで初演した(セミラミテ)をもって閉じられます。後継者として期待されたのが、デビュー作(エルコレ礼賛)(1819年)をロッシーニが音楽監督を務めるナポリのサン・カロ劇場で初演したサヴェリオ・メルカダンテ(Saverio Mercurandante, 1795-1870)と、そのライバルと目された1歳違いのジョヴァンニ・パチーニ(Giovanni Pacini, 1796-1867)です。

メルカダンテは1821年にミラノのスカラ座で初演した(エリーザとクラウディオ)により大成功を収め、その後9年間に22の新作を発表して名声を確立します。一方パチーニは17歳で最初のオペラ作曲、(アデライアとコミッジョ)(1817年)と(ドルシェイムの男爵)(1818年)の成功で一躍脚光を浴び、ロッシーニは(マテildeジヤブタン)(1821年)にパチーニの協力を求め、3つのナンバーを作曲させました。

その後メルカダンテはオペラ改革を提唱し、(暫い)(1837年)、(無頼漢)(1839年)、(ヴェスタの巫女)(1840年)により浪漫派イタリア・オペラの父となり、ヴェルディに大きな影響を及ぼします。パチーニも南イタリアを拠点に活動し、(キヤッテ)(1840年)、(メアア)(1843年)の名作を生み出しました。

この演奏会では、パチーニやサニゼツァに先立って脚光を浴びたメルカダンテとパチーニの初期の活動に光を当て、ロッシーニの協力者、後継者、ヴェルディの先駆者としての二人の再評価を試みます。演奏には初版や初期のヴェルディスコアを用い、1曲を除いてすべての楽曲が日本初演になるものと思えます。(日本ロッシーニ協会会長・水谷彰良)